

## (資料2-1) 答申案の構成について (事務局案)

### 答申案について

---

① 答申書の標題・・・> 実施計画の中間評価と小学校及び中学校の今後のあり方

② 答申案の構成・・・>

#### 1. はじめに

- ・ 令和2年2月に児童生徒の良好な教育環境の構築を目的として「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」の策定から5年が経過し、現在の児童生徒数の推移や学校の現状に対応すべく実施計画の見直しが必要となる。

#### 2. 県内及び市内小中学校児童生徒数の現状

- ・ 全国的に少子高齢化が進行。県内でも児童生徒数の減少や施設の老朽化などを踏まえ、小中学校の再編が進んできている。松江市や出雲市、大田市などで積極的に小中学校の再編方針を掲げて取り組んでいる。
- ・ 本市における児童生徒数は、令和6年度で3,246名。令和10年度には2,900人と児童生徒数が昭和59年度の約35パーセントまで減少し、学級数についても92クラスのうち24クラスが複式学級、中学校では、1クラスあたりの生徒数が18人程度にまで減少すると推測される。

#### 3. 「今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画」に対する中間評価

##### (1) 小学校期におけるこれまでの取組みに対する中間評価

- ・ 地域の特色を活かした小学生の育ちの仕組みづくり
- ・ 地域と学校の連携を進める仕組みづくり

##### (2) 中学校期におけるこれまでの取組みに対する中間評価

- ・ 真砂中学校と益田東中学校の再編 (公共機能を取り込んだ新たな学校づくり)
- ・ 匹見中学校と匹見小学校の同一校舎での運営
- ・ 小野中学校と高津中学校の再編

#### 4. 今後の小中学校のあり方に向けた進め方

##### (1) 小学校のあり方に向けた考え方

- ・ 子どもたちの育ちに繋がる体験・交流・学習の機会を創出するための支援
- ・ 学校と地域を繋ぐ「コーディネーター」の配置充実

##### (2) 中学校のあり方に向けた考え方

- ・ 1学年複数クラスの設置が見込めない中学校4校の検証結果
- ・ 再編に向けた具体的な考え方・・・> 美都中学校と益田東中学校との再編検討

##### (3) 小中学校に共通するあり方に向けた考え方

- ・ 不登校などの課題の解決に向けた仕組みづくり

#### 5. 終わりに